

2022 年度

理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインの一部改正に伴う
「教員資格及び教育内容等の自己評価書」の公表について

リハビリテーション学科作業療法学専攻

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
保健医療 学部 リハビリ テーショ ン学科 作業療法 学専攻	5人	2人	1人	2人	10人	6人	9人	0人	54人	15人	
計	5人	2人	1人	2人	10人	6人	9人	0人	54人	-	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3

	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	生物学	15	鈴木研太	兼任
		物理学	15	長谷川克也	兼任
		化学	15	小川由香里	兼任
		数学	15	蒼見桂子	兼任
		医療保健統計学	15	白戸亮吉	兼任
		文章表現演習	15	真船えり	兼任
		情報リテラシー	15	白戸亮吉	兼任
		基礎ゼミ	15	嘉成望	専任
		哲学	15	吉田真哉	兼任
		生命倫理学	15	吉田真哉	兼任
		心理学	15	木村直樹	兼任
		教育学	15	真船えり	兼任
		文学	15	塚原孝	兼任
		コミュニケーション論	15	桑田美香	兼任

		体育 I	8	勝俣康之	兼任	
		英語 I (基礎英語)	15	室田聖子	兼任	
		英語 II (文献講読)	8	室田聖子	兼任	
		医療英語	8	天野修司	専任	
		実践英語	15	天野修司	専任	
		中国語	8	澁瀬明美	兼任	
		社会学	15	吉田真哉	兼任	
		歴史学	15	天野修司	専任	
		国際関係論	15	天野修司	専任	
		比較文化論	15	塚原孝	兼任	
		法学	15	勝浦信幸	兼任	
		経済学	15	吉岡陽祐	兼任	
		国際保健学	15	天野修司	専任	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 I (骨学・筋学・靭帯学・末梢神経学)	30	宮脇佳子	兼任	
		解剖学 II (中枢神経学・脈管学・内臓学)	15	宮脇佳子	兼任	
		解剖学実習	23	宮脇佳子	兼任	
		生理学 I (概論)	15	小川由香里	兼任	
		生理学 II (各論)	15	小川由香里	兼任	
		生理学実習	23	吉村和法	兼任	
		運動学	30	西田典史	専任	
		運動学実習	23	西田典史・荻山泰地・丸達也	専任	
		臨床運動学	8	西田典史	専任	
		臨床心理学	15	酒井彩子	兼任	
		人間発達学	15	戸島宇一郎	兼任	
		人間と健康	8	鈴木研太	兼任	
		健康とスポーツ	8	西田典史	専任	
			病理学	15	阿部裕輔	兼任

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	衛生学・公衆衛生学		鈴木研太	兼任
	一般臨床医学	15	熊井戸邦佳	兼任
	内科学	15	岩瀬利郎	兼任
	整形外科学Ⅰ	15	関勝	兼任
	整形外科学Ⅱ	15	関勝	兼任
	神経内科学Ⅰ	15	池田正明	兼任
	神経内科学Ⅱ	15	池田正明	兼任
	精神医学Ⅰ	15	岩瀬利郎	兼任
	精神医学Ⅱ	15	岩瀬利郎	兼任
	小児科学	15	先崎秀明	兼任
	医療放射線学概論	8	新藤博明	兼任
	予防医学	8	一色俊行	兼任
	救命救急医学	8	芳賀佳之・清水美砂子	兼任
	栄養学	8	坂本友里・佐藤陽子	兼任
	微生物学	8	伊藤昭三	兼任
	薬理学	15	木村光利	兼任
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	関勝	兼任
	チーム医療演習	15	嘉成望・丸達也・小林毅	専任
	リハビリテーション医学	15	関勝	兼任
	社会福祉学	15	山中知則	兼任
	障害者・高齢者の福祉	15	真野響子・小坂恵美・中里陽子・小澤美和	兼任
	障害者・高齢者の心理	15	森田恵子・坂口由紀子・酒井美子・伊藤直子・滝沢隆	兼任
	理学療法学概論	8	本橋みどり	兼任
	言語聴覚学概論	8	赤沼謙吾	兼任
	看護学	8	風間みえ	兼任
	臨床検査論	8	伊藤昭三	兼任
	スポーツ傷害学	8	西田典史	専任
	基礎作業療法学	作業療法学概論	15	徳永千尋

専門分野		作業療法理論・実践	15	徳永千尋・田島一美・荻山泰地	専任
		基礎作業学	15	石渡香住	専任
		基礎作業学実習	15	石渡香住	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	8	徳永千尋・丸達也	専任
		作業療法教育論	8	徳永千尋・丸達也	専任
	作業療法評価学	作業療法基礎評価学	15	丸達也・嘉成望	専任
		作業療法基礎評価学演習	15	丸達也・嘉成望	専任
		運動器障害評価学	15	田島一美	専任
		運動器障害評価学演習	15	田島一美	専任
		神経障害評価学	15	小林毅・田島一美・荻山泰地	専任
		神経障害評価学演習	15	小林毅・田島一美・荻山泰地	専任
		精神障害評価学	15	石渡香住	専任
		精神障害評価学演習	15	石渡香住	専任
	作業療法治療学	身体障害作業療法学	15	小林毅・田島一美・荻山泰地	専任
		身体障害作業療法学演習	15	田島一美・小林毅・荻山泰地	専任
		内部障害作業療法学	8	小林毅	専任
		ターミナル期作業療法学	8	本田豊	専任
		高次脳機能障害作業療法学	15	田島一美	専任
		高次脳機能障害作業療法学演習	15	田島一美	専任
		精神障害作業療法学	15	石渡香住	専任
精神障害作業療法学演習		15	石渡香住	専任	
発達障害作業療法学		15	嘉成望	専任	
発達障害作業療法学演習		15	嘉成望	専任	

	高齢期障害作業療法学	15	西田典史	専任
	高齢期障害作業療法学演習	15	西田典史	専任
	日常生活活動作業療法学	15	荻山泰地	専任
	日常生活活動作業療法学演習	15	荻山泰地	専任
	義肢装具作業療法学	15	丸達也	専任
	義肢装具作業療法学演習	15	丸達也	専任
	統合作業療法学演習Ⅰ	30	本田豊	専任
	統合作業療法学演習Ⅱ	30	本田豊	専任
地域作業療法学	地域作業療法学	15	徳永千尋	専任
	地域作業療法学演習	15	徳永千尋	専任
	就労支援領域作業療法学	8	徳永千尋	専任
	生活環境支援作業療法学	15	荻山泰地	専任
	生活支援機器作業療法学	15	荻山泰地	専任
作業療法学臨床実習	作業療法学見学実習Ⅰ	23	本田豊	専任
	作業療法学見学実習Ⅱ	23	本田豊	専任
	作業療法学見学実習Ⅲ	23	本田豊	専任
	作業療法評価学臨床実習	92	本田豊	専任
	作業療法学総合臨床実習Ⅰ	184	本田豊	専任
	作業療法学総合臨床実習Ⅱ	184	本田豊	専任
作業療法学研究	作業療法学研究法	15	西田典史	専任
	作業療法学研究	30	本田豊	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療提供施設、その他において、作業療法士の役割、具体的な業務、関わる職種との連携に関する見学	1 年前期	解剖学 I (骨学・筋学・靭帯学・末梢神経学)	1 年前期
		生理学 I (概論)	1 年前期
		基礎ゼミ	1 年前期
		作業療法学概論	1 年前期
		基礎作業学	1 年前期
精神障害系の医療提供施設、その他において、作業療法士の役割、具体的な業務、関わる職種との連携に関する見学	2 年後期	精神医学 I	2 年前期
		精神医学 II	2 年後期
		臨床心理学	2 年前期
		基礎作業学演習	1 年後期
		精神障害評価学	2 年前期
		精神障害評価学演習	2 年後期
身体障害・高齢期障害を中心とする医療提供施設において、作業療法評価に関する臨床技能と臨床思考の実践	3 年前期	作業療法基礎評価学	1 年後期
		作業療法基礎評価学演習	2 年前期
		運動器障害評価学	2 年前期
		運動器障害評価学演習	2 年後期
		神経障害評価学	2 年前期
		神経障害評価学演習	2 年後期
		日常生活活動作業療法学	2 年前期
		日常生活活動作業療法学演習	2 年後期
		高次脳機能障害作業療法学	3 年前期
		身体障害作業療法学	3 年前期
身体障害・高齢期障害・精神障害・発達障害等の医療提供施設において、作業療法評価や治療に関する臨床技能と臨床思考の実践	3 年後期 4 年前期	身体障害作業療法学演習	3 年後期
		内部障害作業療法学	3 年前期
		高齢期障害作業療法学	3 年前期
		高齢期障害作業療法学演習	3 年前期
		精神障害作業療法学	3 年前期
		精神障害作業療法学演習	3 年後期
		発達障害作業療法学	3 年前期
		発達障害作業療法学演習	3 年後期

		高次脳機能障害作業療法学演習	3年前期
		義肢装具作業療法学	2年前期
		義肢装具作業療法学演習	2年後期
		生活環境支援作業療法学	3年前期
		生活支援機器作業療法学	3年後期
訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションを実施している医療提供施設において、作業療法士の役割、具体的な業務、関わる職種との連携に関する見学	4年前期	ターミナル期作業療法学	3年後期
		就労支援領域作業療法学	3年後期
		地域作業療法学	3年後期
		地域作業療法学演習	3年後期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2

	自己点検・評価の体制がない。	1
--	----------------	---

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	新藤博明
組織の開催頻度	年6回
組織の取り組み内容	学生の受け入れに対しての点検・評価
	学生サービスにおける点検・評価
	教育課程及び教授方法にける点検・評価
	社会貢献活動における点検・評価
自己点検・評価結果の公表	大学HPにおける公表URL： https://www.nims.ac.jp/about/info/jihee.html

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会・FD委員会・第三者チェック体制
	委員構成等	保健医療学部教務委員・FD委員
	改善の仕組みの実際	<p>毎年度、「シラバス作成のガイドブック」にて、教育課程における科目の位置づけなどに配慮した記述を促し、学生自身がディプロマポリシーに掲げる資質・能力を身につける事ができるよう授業計画を提示している。シラバス作成過程においては、各教員が作成後、教務委員による点検・承認後、学生に公開する仕組みを構築している。</p> <p>併せて、FD委員会では「教員による教育活動自己評価アンケート」にて、シラバスについての改善点を問うなど、恒常的にシラバスの改善を促している。</p>

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

2021年度に実施された一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の教育評価認定審査において、本学は、適合の判定を得ている。

学生による授業評価アンケート及び教員による教育活動自己評価アンケート、FD研修会、公開授業を実施し、内部質保証に努めている。